

インターバンクの声（2017年1月17日）

昨日は米国市場がキング牧師生誕記念日で休場のため、東京時間の為替市場もそれほど大きく動くことはないと思っただが、前日に『英国の欧州連合（EU）離脱がハードなものになる』との報道があったことから、市場はリスク回避に動き日経平均株価も大きく下落、ドル円も一時 113 円台後半に下落する場面もあった。

この報道は、メイ英首相が 17 日の演説で EU 離脱をめぐる「ハード・ブレグジット」の方針を表明すると日曜日に英メディア各社から出ていたもので、早朝のアジア市場ではドル円以上にポンドが鋭い反応を見せた。先週末のニューヨーク市場の終値は 1.22 ドルを少し割れた水準だったが、週明けの水準は、そこから 200 ポイントほどポンド安に窓を空けた 1.20 ドル前後で取引が始まった。その後のアジア時間では極端な変動はなかったが、ロンドンでは高値と安値の値幅が 100 ポイントまで広げる場面もあった。メイ首相の演説は、17 日ロンドン時間の昼前位から始まるようだが、演説の内容によってはポンドがさらに売られそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。